第６８回入学式　校長の言葉

神奈川県立多摩高等学校長　野田　麻由美

ただいま　入学を許可いたしました２８０名の新入生の皆さんを迎え、本日ここに、神奈川県立多摩高等学校　第６８回入学式を迎えることができますことに、心からお礼申し上げます。

また、保護者の皆様におかれましては、立派に成長した我が子の姿を、さぞ頼もしく感じていらっしゃることでしょう。心からお慶び申し上げます。

新入生の皆さん、入学おめでとう。　皆さんは多摩高校６８期生として、今日、高校生としての日々を歩み始めます。これまでとは違った環境、更に広がりをもつ学習や人間関係など様々な「新しい生活」に期待し胸を膨らませていることでしょう。高校の生活は皆さんが一人の成人となり、社会へつながる道です。しかも、社会につながる出口は一つではありません。この道をどこに向かってどう歩くのか、個人の一つひとつの判断、決断で無限の可能性があります。そしてその進む道に正解はありません。

１９７３年にノーベル物理学賞受賞者の江崎玲於奈氏が、講演のたびに引用されることで有名な言葉があります。「時には踏みならされた道から離れ、森の中に入ってみなさい。これまであなたが見たことのない何か新しいものを見いだすでしょう。」この言葉は、電話を発明したことで有名なアレクサンダー・グラハム・ベルが残した言葉です。江崎氏はアメリカ、ニュージャージー州のベル研究所の玄関に置かれたベル博士の大きな胸像の下に刻まれたこの言葉を見て、「日本の踏みならされた道を離れ、アメリカの森に入ろう。そして、自分の力を試そう」と感動し、早速アメリカに渡り、研究所で研究活動を始めたそうです。「踏みならされた道を離れ、新しい環境でチャレンジをしたことで、現在さまざまな電子回路に利用されている「エサキ・ダイオード」を発明するチャンスに恵まれ、これによりノーベル賞を受賞できた。新しいものを生み出す力、創造力を培うために若い人たちには森に分け入って欲しい。」と話されています。

「踏みならされた道」とは安全で居心地の良い環境、誰かがひいてくれた道を進めば大きな失敗もないが、変化も起きない環境の比喩です。「森」は先行きもわからず、誰かが作った道もない未知の環境の比喩です。江崎氏は、未知の環境、新しい環境でチャレンジすることで、新しいものを生み出す力が生まれると若い人にメッセージを送っています。

「森」の中には決まった道はありません。決まった出口もありません。「森」は広いので自由に歩き回り、好きな方向に進めるでしょう。「森」に入った人は自分の知識や体力を使って、行きたいと思った方向を目指して自分で道を作って、自分が決めた出口に出ればいいのです。ただし、その道は自分で切り拓かなければなりません。どこを出口にするかを決めるのも自分です。森を出るための知識や体力を身に着けるために自分を鍛えなくてはなりません。出来上がったものがないからこそ、必要なもの、新しいものを生み出す力、創造力が身につくのです。自分の意志を持ち、自分の力で対応する中で鍛えられ成長するのです。

これから皆さんが踏み出す新しい環境にどう対応するのか、正解はありません。自分の意志を持ち、そして自分で考え、行動し、一人ひとりのやり方で道を作ってください。

「時には踏みならされた道から離れ、森の中に入ってみなさい。これまであなたが見たことのない何か新しいものを見いだすでしょう」この言葉を送り、皆さんがこれから始まる高校生活の３年間で、新しい環境で恐れずチャレンジして多くのことを発見し、成長することを期待して祝辞とします。